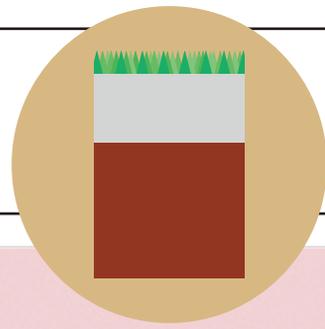


# I 目砂層薄型 サンディグリーン・土グリーン



## 特徴

- ・黒土、赤土、マサ土など、シルトや粘土を含む土壌を主体に造成されたグリーンである。
- ・目砂層の厚さは15cm 以内である。

## 解説

いわゆる“土のグリーン”は、構造の主体がシルト (0.05mm以下の粒子) や粘土 (0.01mm以下の粒子) からなるため排水性や土壌通気性が悪く、土壌も固結しやすいのが特徴です。

グリーンの排水は悪く、一方で目砂層の部分は乾きやすく乾燥害が起こりやすくなります。また、目砂層と土の層の境で水や空気の移動、根の伸長が遮断され、その結果、芝の根は浅い目砂層の中だけで生育を強いられ、乾燥・過湿の両ストレスを受けます。

## 対策

深層エアレーションを定期的に行い、透水性を維持することが大切です。透水改善にはドリルエアレーション、ディープエアレーション、シャッターリング等の作業が有効です。深さ10cmより深い位置に固結層があることが多いので、土壌調査を行い適切な作業の種類や施工深度を検討しましょう。下層での排水が期待できない場合には、暗渠排水工事やPCドレーン工を行うことも必要でしょう。しかしながら、こうしたグリーンを常に最高のコンディションで維持するのは難しく、コスト的にも負担が大きいため、長期的には改修工事を行ってサンドグリーンに移行することをお勧めします。

